



清風亭（深谷市）

2014年8月 訪問

埼玉モダンたてももの学生レポーター

青山学院大学文学部 丸谷 奈央



ここに注目！①

建物の外側をぐるっと見回すと、雨どいが角の4か所にしかないことがわかります。実は屋根瓦に隙間があり、ベランダアーチの内部の溝に雨水が流れ出す仕組みになっています。これによって、軒先からの雨だれを防いでいるんだとか。

清風亭は、渋沢栄一の後を継ぎ、第一銀行の第2代頭取となった佐々木勇之助の古希（70歳）を記念して大正15年に建てられたもの。平成11年に、誠之堂とともに現在の場所に移築されました。

屋根のスパニッシュ瓦やベランダのアーチ、白壁などが、東洋的な意匠を取り入れた誠之堂とは対照的。いかにも西洋、といった趣です。これは当時の流行に倣ったもので、設計者の西村好時自身「南欧田園趣味」と称していたそう。当時としては珍しい鉄筋コンクリート造りは関東大震災を受けてのものです。



こちらが内部です。誠之堂と同様、銀行業務を行う上での接待や会議、研修等に使われていました。

暖炉の横のドアの先には、クロークとトイレ、外につながる出入り口があります。実はこちらが本来の玄関で、現在の入り口は勝手口に当たるのだとか。

部屋の中央にあるテーブルと椅子は移築した際に置かれたもの。細く継ぎ目があるのは、席に着く人数によって長さを微調整できるようにしているからなんです。



室内から見た外の様子。隣の誠之堂との位置関係は、以前と変わりません。現在ベランダ側には芝生が広がっていますが、これは移築前の土地の景色に近づけるための配慮。昔の風景に思いをはせることができます。

ここに注目！②

一見シンプルで、誠之堂と比べ飾りっ気がなく感じられる清風亭。しかし細部までじっくり眺めてみると、さまざまな動物・植物のモチーフが施されています。



雨どいの上には、「復活」の象徴の蝉があしらわれています。天井の四隅には蜘蛛の装飾が。これは、取引でつかんだお客を逃がさないように、さらには、蜘蛛の子を散らすように、社員がさまざまな所で情報を手に入れ活躍できるようにという意味なのではないか、とのこと。

窓の柱部分と天井にあるのは葡萄のモチーフです。葡萄には陶酔、人間愛、親切といった花言葉があり、いずれも渋沢栄一を表現しているといわれています。

